

令和5年産 「にじのきらめき」 栽培講習会

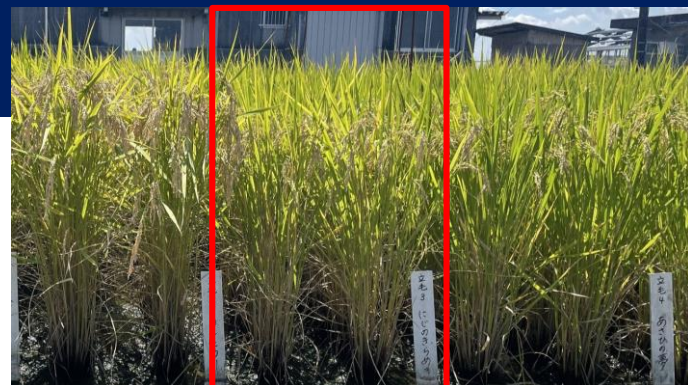
※掲載した農薬の登録内容は令和5年1月11日現在。使用の際は、ラベルをよく読み使用基準を遵守する。

J A 邑楽館林
館林地区農業指導センター

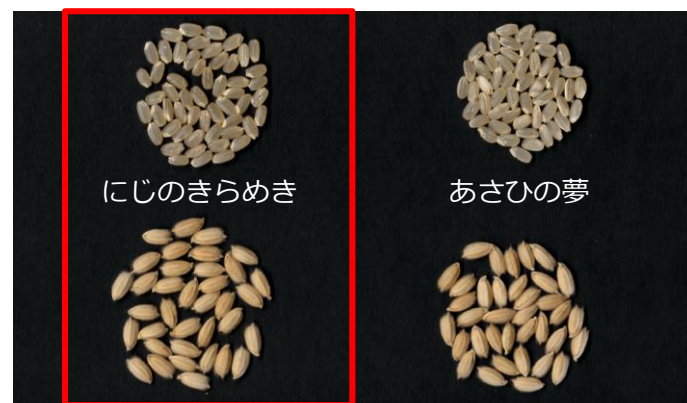
「にじのきらめき」の特徴

「あさひの夢」と比較して、

1. 出穂期 7～8日程度早い
2. 成熟期 5～8日程度早い
3. 稈長 やや短い
4. 収量 穂数が多く大粒で、多収
5. 高温耐性 高温登熟性はやや優れ、
高温でも品質が低下しにくい
穂が止葉で隠れ穂温が上がりにくい
6. 縞葉枯病抵抗性 有
7. 食味 良
8. 収穫適期 やや多く帯緑色籾が残った状態で適期



コシヒカリ にじのきらめき あさひの夢



にじのきらめき

あさひの夢

東部地域研究センター（館林市当郷町）における奨励品種決定調査成績

| 田植時期 | 品種 | 移植期 (月/日) | 出穂期 (月/日) | 成熟期 (月/日) | 稈長 (cm) | 穂長 (cm) | 穂数 (本/m ²) | 収量 (kg/10a) | 収量比 (%) | 千粒重 (g) | 品質 1～9 |
|------|---------|--------------|--------------|--------------|------------|------------|---------------------------|----------------|------------|------------|-----------|
| 5月上旬 | にじのきらめき | | 7/29 | 9/10 | 68 | 20.3 | 399 | 583 | 109 | 23.2 | 5.2 |
| | あさひの夢 | 5/9 | 8/6 | 9/18 | 71 | 21.2 | 366 | 532 | (100) | 22.2 | 6.2 |
| | コシヒカリ | | 7/28 | 9/6 | 89 | 19.7 | 408 | 503 | 95 | 20.9 | 7.5 |
| 6月上旬 | にじのきらめき | | 8/10 | 9/24 | 76 | 19.8 | 422 | 602 | 109 | 24.0 | 4.0 |
| | あさひの夢 | 6/2 | 8/18 | 10/1 | 78 | 20.6 | 383 | 551 | (100) | 22.8 | 3.5 |
| | コシヒカリ | | 8/9 | 9/17 | 97 | 18.9 | 376 | 518 | 94 | 22.3 | 5.9 |
| 6月中旬 | にじのきらめき | | 8/19 | 10/4 | 72 | 19.5 | 376 | 575 | 111 | 24.2 | 3.3 |
| | あさひの夢 | 6/20 | 8/26 | 10/9 | 75 | 20.4 | 343 | 519 | (100) | 23.3 | 3.6 |

※5月上旬・6月中旬移植はH28～R2年、6月上旬移植はH27～R2年の平均値

※品質は「1（上上）～9（下下）」の9段階

「にじのきらめき」 R4年産の振り返り 生産者からの意見

収量をとれた

作業が分散できる

高温でも
品質が良い

食味が良い



紋枯病が多発した

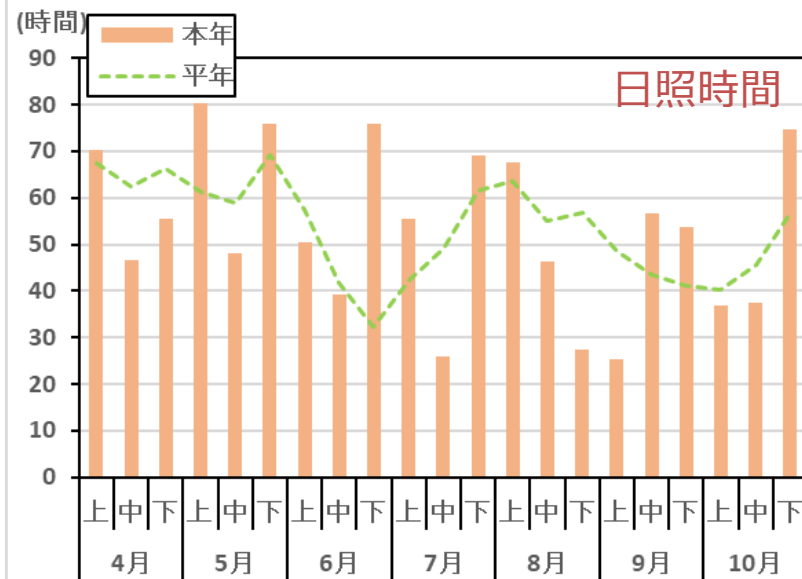
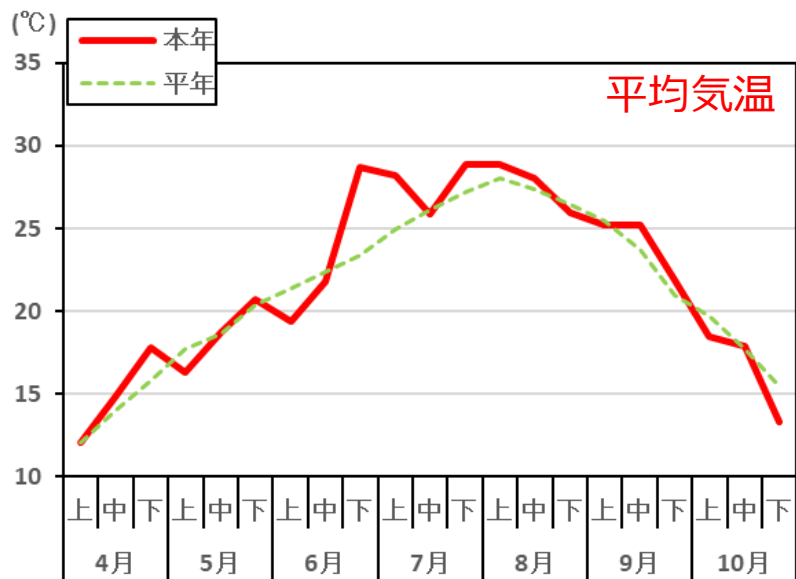
一部で倒伏が
見られた

遅れ穂が見られた

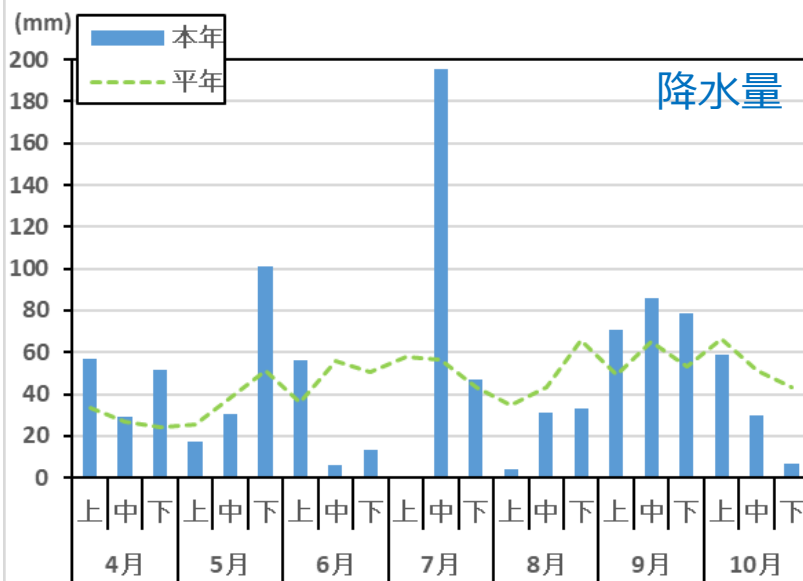
青未熟粒や屑米が
多かった



「にじのきらめき」 R4年産の振り返り 気象経過



(アメダス館林)



主な台風の接近

| 接近日 | 号 | 最大風速 (m/s) |
|---------|----|---------------|
| 8/12~13 | 8 | 6.7 |
| 9/6 | 11 | 7.5 |
| 9/19~20 | 14 | 7.8 |

「にじのきらめき」 R4年産の振り返り 気象が作柄に与えた影響

| 気象 | | 作柄にプラス | 作柄にマイナス |
|---------|---------|----------------------------------|------------------------------|
| 6/上 | 低温・日照不足 | - | <早期・早植栽培> 初期生育の遅れ |
| 6/下~7/上 | 異常高温 | 分けつ促進 → 収量の確保 | 紋枯病 の多発 |
| 7/中 | 多雨・日照不足 | - | 中干しが不十分 → 倒伏・未熟粒の原因 |
| 7/下~8/中 | 高温 | <早期栽培> 登熟向上 → 収量の確保 | 紋枯病 の多発 |
| 8/12 | 乾燥強風 | - | 出穂直後の粃擦れ → 褐変粃、不稔粃 |
| 8/中~9/上 | 日照不足 | - | 成熟の遅れ、登熟不良 |
| 9/中下 | 高温・多照 | 登熟向上 → 収量の確保 | - |
| 10/上 | 低温・日照不足 | - | 成熟の遅れ、登熟不良 |
| | | | 青未熟粒 の発生 |

収量・品質の低下を防ぐため、気象条件に応じた適切な栽培管理が重要

「にじのきらめき」栽培上の留意点

1. 成熟期はあさひの夢より5～8日程度早い
登熟期間が低温・低日照で経過した場合、成熟期がやや遅れる傾向
 - ▶ 田植や水管理、防除、収穫等の作業が遅れないよう注意
生育量と安定した登熟を確保するため、なるべく早く田植
2. 稈長はあさひの夢より短い
ほ場条件や施肥量によっては倒伏の懸念がある
 - ▶ 中干しを十分に
中干しできる水はけのよいほ場で栽培
施肥は適正量で
3. 病害虫の多発は収量・品質低下の原因となる
 - ▶ 病害虫防除を適切に行う
4. 穂が止葉で隠れる
あさひの夢よりやや多く帯緑色粃が残った状態で収穫適期
(帯緑色粃歩合10～15%)
 - ▶ 品質低下防止のため、刈り遅れに注意

「にじのきらめき」田植日別栽培スケジュール

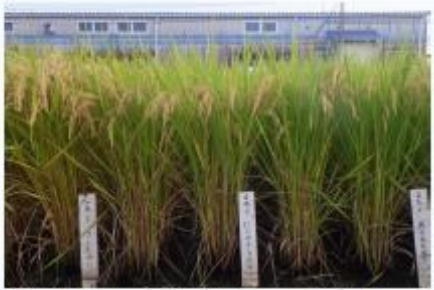
「にじのきらめき」栽培のポイント

田植日別に4種類

5月15日田植 「にじのきらめき」栽培のポイント

JA尾山館林・館林地区農業指導センター

- <品種の特徴> (あさひの夢と比較)**
- 出穂期は7～8日程度早い
 - 成熟期は5～8日程度早い
 - 穂長はやや短い
 - 穂数が多く大粒で、収量性は高い
 - 高温耐熱性はやや優れる
 - 結実結病の低発性を有する
 - 食味はコシヒカリ並の良食味
 - 無緑色病歩合がやや高い状態で収穫適期



コシヒカリ にじのきらめき あさひの夢



- <備苗育成・病害虫防除>**
- 浸種を十分に行う。
浸種温度の目安は120℃で、一般品種に比べ約1日浸種日数を長くする。
 - 稲穂用剤でいもち病・紋枯病対策をする。
本田でいもち病・紋枯病の発生を確認したら、速やかに防除する。

- <施肥>**
- 時期 出穂前18～15日頃
 - 追肥量 窒素成分 2～3 kg/10a程度
- <追肥>**
- 時期 出穂前18～15日頃
 - 追肥量 窒素成分 2～3 kg/10a程度
- ※地方に応じて加減する。 ※生育状況・気象条件に応じて加減する。

- <水管理>**
- 中干しを適期に実施する。
※田穂有効葉数の8割確保で実施する。
60株/坪程度で17本/株が目安。
 - 耐冷性が弱いため、穂ばらみ前に低温が予想される場合は深水管理を実施する。

- <収穫適期の目安>**
- 出穂後積算気温 1100～1200℃
 - 無緑色病歩合 10～15%
- ※あさひの夢よりややや緑色が残った状態
※田穂時期・気象条件により変動するため、総合的に判断する。

<参考 あさひの夢>



※日付は目安

85年1月作成

6月1日田植 「にじのきらめき」栽培のポイント

JA尾山館林・館林地区農業指導センター

- <品種の特徴> (あさひの夢と比較)**
- 出穂期は7～8日程度早い
 - 成熟期は5～8日程度早い
 - 穂長はやや短い
 - 穂数が多く大粒で、収量性は高い
 - 高温耐熱性はやや優れる
 - 結実結病の低発性を有する
 - 食味はコシヒカリ並の良食味
 - 無緑色病歩合がやや高い状態で収穫適期

6月15日田植 「にじのきらめき」栽培のポイント

JA尾山館林・館林地区農業指導センター

- <品種の特徴> (あさひの夢と比較)**
- 出穂期は7～8日程度早い
 - 成熟期は5～8日程度早い
 - 穂長はやや短い
 - 穂数が多く大粒で、収量性は高い
 - 高温耐熱性はやや優れる
 - 結実結病の低発性を有する
 - 食味はコシヒカリ並の良食味
 - 無緑色病歩合がやや高い状態で収穫適期

6月30日田植 「にじのきらめき」栽培のポイント

JA尾山館林・館林地区農業指導センター

- <品種の特徴> (あさひの夢と比較)**
- 出穂期は7～8日程度早い
 - 成熟期は5～8日程度早い
 - 穂長はやや短い
 - 穂数が多く大粒で、収量性は高い
 - 高温耐熱性はやや優れる
 - 結実結病の低発性を有する
 - 食味はコシヒカリ並の良食味
 - 無緑色病歩合がやや高い状態で収穫適期



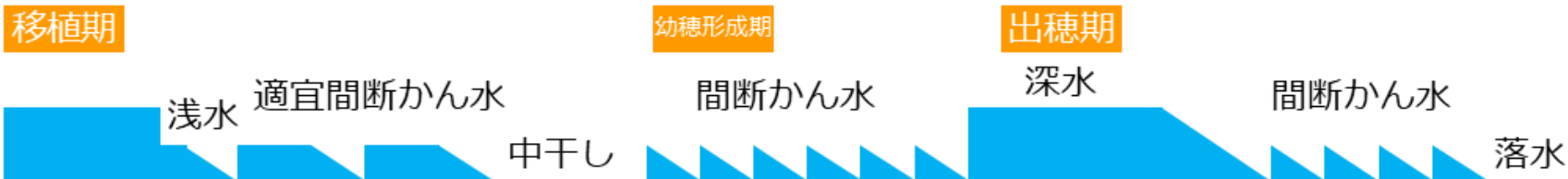
- <備苗育成・病害虫防除>**
- 浸種を十分に行う。
浸種温度の目安は120℃で、一般品種に比べ約1日浸種日数を長くする。
 - 稲穂用剤でいもち病・紋枯病対策をする。
本田でいもち病・紋枯病の発生を確認したら、速やかに防除する。
- <施肥>**
- 時期 出穂前18～15日頃
 - 追肥量 窒素成分 2～3 kg/10a程度
- ※地方に応じて加減する。 ※生育状況・気象条件に応じて加減する。
- <水管理>**
- 中干しを適期に実施する。
※田穂有効葉数の8割確保で実施する。
60株/坪程度で17本/株が目安。
 - 耐冷性が弱いため、穂ばらみ前に低温が予想される場合は深水管理を実施する。
- <収穫適期の目安>**
- 出穂後積算気温 1100～1200℃
 - 無緑色病歩合 10～15%
- ※あさひの夢よりややや緑色が残った状態
※田穂時期・気象条件により変動するため、総合的に判断する。



※日付は目安

85年1月作成

「にじのきらめき」水管理 間断かん水・中干し



<間断かん水>

土壤中に酸素を供給し、根の活力を高める

<中干し> 目標有効茎数の8割確保で実施する
(60株/坪植えて17本/株が目安)

※「あさひの夢」より分けつが増えやすい傾向で、
中干し開始が遅れると無効分けつが増えやすいため注意

<中干しの効果>

無効分けつの抑制

▶ 過繁茂を防ぎ、受光態勢が向上
未熟粒・病害の発生抑制

下位節間の伸長抑制

▶ 倒伏防止

土壤中に酸素を供給

▶ 根の活力を高める

土壤を固める

▶ コンバイン収穫の作業性向上

「にじのきらめき」の施肥 施肥量の目安・一般化成

＜施肥量の目安＞

| 品種名 | 窒素成分 (kg/10a) | | |
|---------|---------------|-----|------|
| | 基肥 | 追肥 | 計 |
| にじのきらめき | 6~7 | 2~3 | 8~10 |
| あさひの夢 | 6~7 | 2~3 | 8~10 |

※地力、生育状況、気象条件等に応じて加減する

窒素成分の計算方法

＜1. 一般化成（基肥+追肥）の場合＞

※追肥時期は出穂前18~15日頃

例) **オール14** (14-14-14)



+

NK17 (N17-K16)



基肥の目安は
窒素成分

6~7 kg/10a

$$6 \div 0.14 = 43$$

$$7 \div 0.14 = 50$$

製品 43~50 kg/10a
(2.1~2.5袋/10a)

追肥の目安は
窒素成分

2~3 kg/10a

$$2 \div 0.17 = 12$$

$$3 \div 0.17 = 18$$

製品 12~18 kg/10a
(0.6~0.9袋/10a)

「にじのきらめき」の施肥 一発型

<2-1. 一発型 の場合> ※追肥が省略できる
(1袋 20kg)

例) BMコート1号 (15-14-15)



施肥量の目安

基肥 + 追肥の総窒素量から1割減とすると
窒素成分 7.2~9 kg/10a

$$7.2 \div 0.15 = 48$$

$$9 \div 0.15 = 60$$

製品 48~60 kg/10a
(2.4~3 袋/10a)

(参考)

1袋に含まれる窒素成分

$$20 \text{ kg} \times 0.15 = 3 \text{ kg/袋}$$

袋の表示を確認する

15-14-15

窒素 2.0 マンガン 0.20 ほう素 0.10

この肥料1袋の中には、次の成分が含まれています。
 チッソ 3.00kg リンサン 2.80kg カリ 3.00kg
 クド 0.40kg マンガン 40g ホウソ 20g

| 名 称 | 溶 出 パ タ ー ン | 使 用 量 |
|------------------|--|------------|
| くみあい4.10 被覆尿素 | 25℃の水田条件または畑地条件では、施肥後約40日間チッソ成分の溶出が抑制され、その後約40日間にわたってチッソ成分の約80%が徐々に溶出します。溶出期間は土壌温度によって変わります。低い温度では溶出期間は長くなります。 | チッソ成分量の65% |
| EMコートS80H | | |

特 長

- この肥料には、速効性のアンモニア態窒素と緩効性の被覆尿素が含まれていますので、生育初期から後期まで肥効が持続する省力的な基肥一発型の肥料です。
- 「BMよりん」入りのため、不足しがちな微量要素を補えます。
- この肥料には次の被覆肥料が原料に使用されています。

施 肥 例

- この肥料はどんな作物にも良く効きますが、特に次の作物に好適です。
水 稲
- この肥料10a(1反)当りの施肥基準量は、次の通りです。

| 品 種 | 施 肥 量 |
|-------|-------------|
| コシヒカリ | 30kg ~ 50kg |
| キヌヒカリ | 40kg ~ 55kg |
| 朝 の 光 | 45kg ~ 60kg |

※これは基準量ですから、土壌、前作、作型、地域の気象条件等により、施肥量が異なりますので、適宜増減して下さい。

使用上の注意

- この肥料は強い衝撃や摩擦によって被覆肥料の被膜が一部損傷し、溶出が早まる恐れがありますので注意して下さい。なお、機械施肥の場合は、施肥機の取り扱い説明書をよくご覧のうえご使用下さい。
- 強いアルカリ資材とは、混用しないで下さい。アンモニアガスが発生し、植害を起こすことがあります。
- 除草剤とは混用しないで下さい。
- 取り扱いにはマスク、手袋、眼鏡等を着用して下さい。
- 幼児等の手の届かないところに保管して下さい。
- 直射日光を避け、乾燥したところに保管して下さい。
- 水田でご使用の場合、溶出後の被覆肥料の殻が浮くことがありますので、ほ場外に流出させないようにご注意下さい。
- この肥料の利用方法に不明な点がありましたら、最寄のJAにご相談下さい。

指定配合肥料
生産業者保証票

肥料の名称
くみあい窒素・リンサン・ほう素・微量要素S80入り配合肥料S45号

保証成分(%)

| | |
|-------|-----------|
| 窒 素 | 全量 15.0 |
| リン | リン酸 5.0 |
| 炭 素 | 性リン酸 14.0 |
| 内 水 | 溶性リン酸 6.8 |
| 水 溶 性 | 加量 15.0 |
| 炭 素 | 性リン酸 2.0 |
| 炭 素 | 性リン酸 0.20 |
| 炭 素 | 性ほう素 0.10 |

原料の種類 保証書の下欄に記載の通り

正 味 重 量 20.0kg

生産した年月 上部シール部分に記載

生産業者の名称(はな名及び住所)
朝日工業株式会社
埼玉県荒尾郡神野町東2220
生産した事業場の名称及び所在地
上部シール部分に記載

(配合原料)
塩化加量、被覆尿素肥料、腐りん肥、化成肥料、硫酸アンモニア

備考：窒素割合の大きい順である。

化学肥料とあわせて、堆きゅう肥などの有機物と
土壌改良に役立つ無機質資材を適正にほどこし、
調和のとれた土づくりが心がけましょう。

「にじのきらめき」の施肥 軽量一発型

< 2 - 2. **軽量一発型**の場合 > ※追肥が省略できる
(1袋 15kg)

例) **軽量水稻一発清輝 (27-10-10)**

施肥量の目安

基肥 + 追肥の総窒素量から1割減とすると
窒素成分 7.2~9 kg/10a

$$7.2 \div 0.27 = 27$$

$$9 \div 0.27 = 33$$

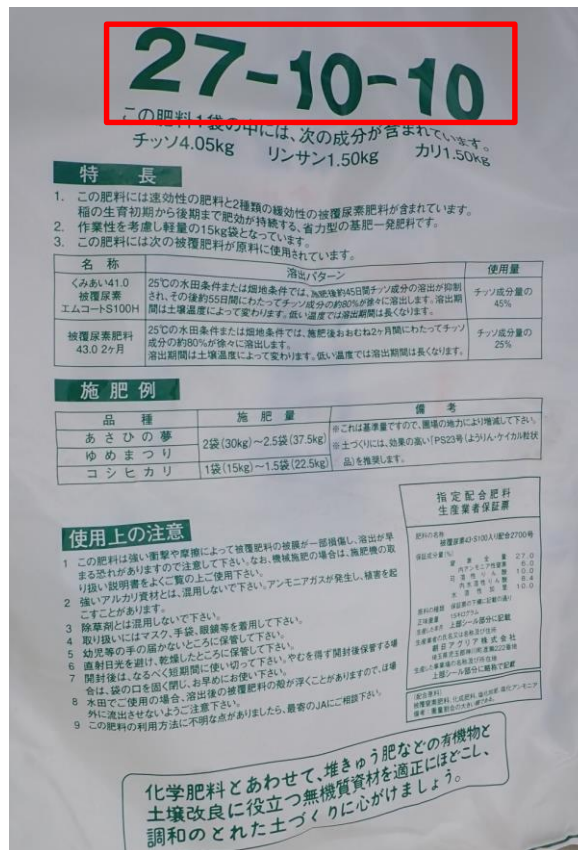
製品 27~33 kg/10a
(1.8~2.2 袋/10a)

(参考)

1袋に含まれる窒素成分

$$15 \text{ kg} \times 0.27 = 4.1 \text{ kg/袋}$$

袋の表示を確認する



※15kg (軽量) タイプと20kgタイプがあるため注意。

※袋やチラシの「あさひの夢」の施肥基準量を参考にする。

※浅水代かき等により、プラスチック被覆殻のほ場外流出防止を心がける。

「にじのきらめき」の施肥 まとめ

| 肥料の種類 | 容量 (kg) | 商品名 (例) | | 成分(%) | | | 目安施肥量 | | |
|-------|------------|----------|-------|-------|----|----|------------|----------|---------|
| | | | | N | P | K | N (kg/10a) | (kg/10a) | (袋/10a) |
| 一般化成 | 20 | 基肥 | オール14 | 14 | 14 | 14 | 6~7 | 43~50 | 2.1~2.5 |
| | 20 | 追肥 | NK17 | 17 | - | 16 | 2~3 | 12~18 | 0.6~0.9 |
| 一発型 | 20 | BMコート1号 | | 15 | 14 | 15 | 7.2~9 | 48~60 | 2.4~3 |
| 軽量一発型 | 15 | 軽量水稻一発清輝 | | 27 | 10 | 10 | 7.2~9 | 27~33 | 1.8~2.2 |



R3～R4年産「にじのきらめき」施肥試験結果

<試験場所> 板倉町籾谷

<田植> 5月29日

<植付株数> 46株/坪（株間24cm）

<使用した基肥一発肥料の特徴>

| 肥料名 | 成分 N-P-K (%) | 無機 | N成分割合 | |
|--|--------------------|-----|-----------------------|----------|
| | | | 緩効性肥料（被覆肥料） リニア30日 | シグモイド80日 |
|  軽量水稻一発252 | 20-15-12 | 30% | 24% | 46% |
|  BMコート1号 | 15-14-15 | 35% | - | 65% |

R3～R4年産「にじのきらめき」施肥試験結果

| 年 | 肥料名 | N成分 (kg/10a) | 出穂期 (月/日) | 成熟期 (月/日) | 稈長 (cm) | 穂長 (cm) | 穂数 (本/m ²) | 倒伏 | 収量 (kg/10a) | 屑米重 (kg/10a) | 千粒重 (g) | 検査 等級 |
|-------------|------------|-----------------|--------------|--------------|------------|------------|---------------------------|----|----------------|-----------------|------------|----------|
| R3 | 軽量水稻一発252 | 7.2 | 8/8 | 9/21 | 72.0 | 19.1 | 361 | 無 | 494 | 37.4 | 22.9 | 2.0 |
| | BMコート1号 | 7.2 | 8/8 | 9/21 | 73.2 | 20.0 | 354 | 無 | 511 | 37.2 | 22.9 | 3.0 |
| | オール14+NK17 | 6+2 | 8/8 | 9/21 | 73.2 | 20.3 | 365 | 無 | 544 | 30.4 | 23.8 | 2.5 |
| R4 | 軽量水稻一発252 | 7.2 | 8/10 | 9/25 | 73.5 | 22.5 | 368 | 無 | 590 | 21.8 | 23.0 | 1.5 |
| | BMコート1号 | 7.2 | 8/10 | 9/25 | 74.1 | 22.7 | 384 | 無 | 635 | 27.2 | 22.7 | 1.0 |
| | オール14+NK17 | 6+2 | 8/10 | 9/25 | 72.7 | 22.9 | 370 | 無 | 585 | 19.6 | 23.5 | 1.0 |
| R3～R4 平均 | 軽量水稻一発252 | 7.2 | 8/9 | 9/23 | 72.8 | 20.8 | 365 | 無 | 542 | 29.6 | 22.9 | 1.8 |
| | BMコート1号 | 7.2 | 8/9 | 9/23 | 73.6 | 21.3 | 369 | 無 | 573 | 32.2 | 22.8 | 2.0 |
| | オール14+NK17 | 6+2 | 8/9 | 9/23 | 72.9 | 21.6 | 368 | 無 | 565 | 25.0 | 23.7 | 1.8 |

- ・ **出穂期、成熟期、病害虫発生程度は同等**であり、**倒伏はなかった**。
- ・ 年や肥料の種類により差があるが、**8.2～10.6俵の収量**が確保できた。
- ・ 基肥一発肥料は基肥+追肥よりN成分を1割減らしたが、収量に大きな差はなかった。

- ・ **緩効性肥料は、気象条件により溶出時期がずれる**。
R3、R4年は移植後が高温となったため、
緩効性肥料の溶出時期が早まり、収量に影響した可能性がある。
- ・ R3年は出穂直後の乾燥強風による不稔粒や奇形粒、褐変粒、
穂いもちや内穎褐変病の発生により外観品質が低下したが、
R3、R4年ともに**高温による白未熟粒の発生はほとんどなかった**。



特に注意が必要な病害虫 1 紋枯病

【発生しやすい条件】

- ①高温多湿
- ②密植で過繁茂、多肥栽培

病斑は初め水際に近い葉鞘に現れる。
上位葉まで進展すると葉が枯れ上がり、
著しい場合は倒伏や減収となる。



【対策】

密植・窒素過多を避ける
箱施用剤

エバーゴルプラス箱粒剤 **フルスロットル箱粒剤**

ブーンレパード箱粒剤 **箱大臣粒剤** (いもち病にも登録あり) など

本田防除 幼穂形成期～出穂期

バリダシン液剤5 **モンカットフロアブル** など

- ①出穂期が高温多湿、多肥栽培で発生しやすい。
- ②茶米、死米が増加すると、外観品質が低下する。



【対策】

本田防除 出穂期前後
ブラシフロアブル など

特に注意が必要な病害虫 3 いもち病

種子伝染、空気伝染する。
感染苗の本田への持ち込み、屋外で乾燥越冬した被害わら・籾殻からの病原菌（孢子）の飛散が、本田での初発につながる。

【発生しやすい条件】

- ①低日照、多湿（朝露が切れない）
- ②平均気温20～25℃
- ③日陰、窒素肥料の遅効き



急性型病斑



慢性型病斑



穂いもち

葉いもち

【対策】

- ①置き苗は発生源となるため除去
- ②資材・種子消毒。種子保管は清潔な冷暗所で。
- ③箱施用剤 **ルーチンアドスピノ箱粒剤、箱王子粒剤**など
- ④本田防除 **早期発見・早期防除**
 - ・葉いもち（予防） **ゴウケツ粒剤・パック**
（予防+治療） **ブラシフロアブル**
（治療） **カスミン液剤**
 - ・穂いもち（予防） **ゴウケツ粒剤・パック**
穂ばらみ期と穂揃期 **ブラシフロアブル**

※ブラシフロアブルの総使用回数は2回まで

- ⑤葉いもち多発ほ場では、追肥を控える。
- ⑥採種しない。

置き苗は処分！



発生源

特に注意が必要な病害虫 4 稲こうじ病

土壌伝染性病害。

菌核が地面へ落下し、水田表層や土壌中で越冬する。

【発生しやすい条件】

- ①発生したことのあるほ場
- ②穂ばらみ期～出穂期頃の高雨、低温
- ③日陰、窒素肥料の遅効き



【対策】

- ①本田防除 **発生してからでは防除方法がないため、**
予防防除が必要

| | |
|-----------------|-----------|
| ドイツボルドーA | 出穂21～10日前 |
| モンガリット粒剤 | 出穂21～14日前 |

- ②発病した菌核、粃の除去（水田に残さない）
- ③窒素過多を避ける

- ①高温で発生しやすい。
- ②吸汁害により斑点米が発生し、
玄米品質低下の原因となる。



【対策】

- ①出穂2週間前まで
生息している水田周辺雑草の刈り取り
- ②本田防除 穂揃期 + その後7~10日
トレボン乳剤
スミチオン乳剤
トライトラムフロアブル (いもち病にも登録あり) など

「にじのきらめき」収穫適期

「あさひの夢」より出穂後の積算気温（登熟日数）を必要とするが、やや多く帯緑色粳が残った状態で収穫適期となる

| 品種 | 出穂後の積算気温 | 帯緑色粳歩合 |
|---------|------------|--------|
| にじのきらめき | 1100～1200℃ | 10～15% |
| あさひの夢 | 1000～1100℃ | 10% |

田植日や気象条件等により変動するため、総合的に判断する。
粳の着粒が密であるため、登熟期間が低温・低日照で経過した場合、成熟期がやや遅れる傾向。

「にじのきらめき」 収穫適期の判定方法 1 出穂後の積算気温

ほ場で出穂期を確認する

▶ 出穂後の積算気温1100~1200℃が収穫適期の目安



＜出穂期＞

ほ場全体の4~5割の
穂の頭が見えた日

| 出穂期 | 1100℃ | | 1200℃ | |
|------|-------------|------------------|-------------|------------------|
| | 到達日 (平年) | 出穂期 からの 日数 | 到達日 (平年) | 出穂期 からの 日数 |
| 7/25 | 9/3 | 40 | 9/7 | 44 |
| 7/31 | 9/9 | 40 | 9/14 | 45 |
| 8/5 | 9/15 | 41 | 9/19 | 45 |
| 8/10 | 9/21 | 42 | 9/26 | 47 |
| 8/15 | 9/28 | 44 | 10/3 | 49 |
| 8/20 | 10/4 | 45 | 10/10 | 51 |
| 8/25 | 10/11 | 47 | 10/17 | 53 |

※平年：アメダス館林

「にじのきらめき」 収穫適期の判定方法 2 帯緑色籾歩合

ほ場で籾の色を確認する

- ▶ ほ場全体の青が残っている籾（帯緑色籾）の割合10～15%が収穫適期の目安

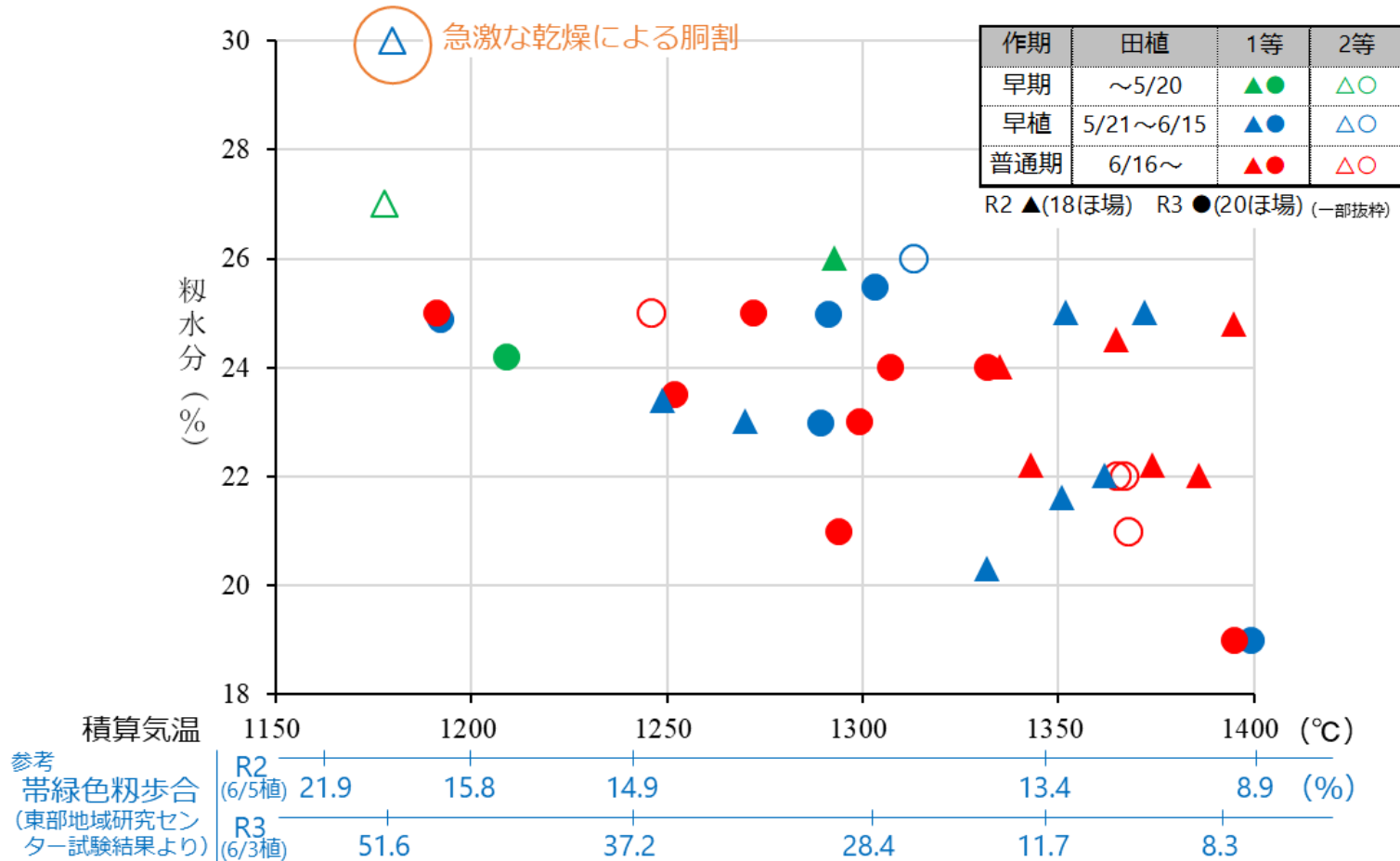


穂が止葉で隠れる
葉は青くても籾は成熟が進んでいる



R2～R3年産「にじのきらめき」収穫適期アンケート調査結果

<調査項目> 田植日、収穫期（推定出穂期～収穫期の積算気温）、収穫時の籾水分、検査等級



- ・ 積算気温約1350℃超・収穫時の籾水分約25%以上で特に品質が低下しやすくなる。
- ・ 適期となる積算気温や帯緑色籾歩合は、田植日や気象条件によって変動する。
- ・ 「にじのきらめき」の高品質生産のためには、刈り遅れや高水分での収穫を避け適期に収穫すること、急激な乾燥を避けることが重要と考えられた。